

☎問い合わせ先

戦国屈指の知将

小早川隆景

ものがたり ⑦



三原城を築城し、現在の三原市の礎を築いた小早川隆景。広報みはら最終ページでは「小早川隆景ものがたり」を連載し、みなさんと一緒に隆景の生涯をたどります。

毛利氏と

織田氏の対決

小早川隆景の父・毛利元就が中国地方を治め始めた頃、尾張国(現在の愛知県)の武将・織田信長が畿内(現在の大阪府・京都府南部・奈良県・兵庫県南東部)を治めるなど、天下統一をめざして勢力を拡大していました。

元就は自分の死後、これまでに獲得した領地の保持に努め、天下統一の争いに加わることを固く禁じていました。しかし、毛利氏は、室町幕府の最後の將軍・足利義昭から、兵を出すように求められたため、この争いに巻き込まれてしまいました。義昭から頼まれることは、毛利氏にとって京都・大阪進出の大義名分を手に入れるものでした。

本営三原

天正4(1576)年、毛利氏は信長と戦うことを決め、山陰道・山陽道・瀬戸内海の3つの経路から京都に攻める作戦を立てました。毛利氏は隆景の本拠地であり、陸路と水路の両方の要所であった三原に本営を置き、天正8(1580)年には、家臣・粟屋元道に三原城の警備を命じ、三原城の修築も行わせました。

秀吉との和睦交渉

天正10(1582)年、毛利氏の家臣であった清水宗治の守る備中高松城現在の岡山県岡山市)が信長の家臣・羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)の水攻めに遭い、隆景は甥・輝元、兄・吉川元春と救

援に向かいました。

秀吉による備中高松城の攻略がほぼ成功しかけた矢先、京都の本能寺で信長が家臣・明智光秀に討たれました。これを聞いた秀吉は、宗治の切腹などを条件に和睦を結び、光秀を討つために急いで京都へ戻りました。



▲隆景陣営のあった場所から見た備中高松城跡

隆景の家臣であり、備中高松城で戦いの監視役を務めていた末近信賀は、「私も一緒にこの城にこもって戦ったのであるから、その義理の上からも帰ることはできない」と言って、同年6月4日、宗治と切腹しました。信賀ゆかりの地である久井町羽倉には、信賀の供養碑と



瀬戸内三原築城450年事業

文化課

☎0848-649234

伝えられる殿様墓(市史跡)があります。

毛利氏の中には、秀吉軍を追撃しようとする者もいましたが、隆景は信義の大切さを説き反対しました。これにより秀吉から信頼を得た毛利氏は、豊臣政権下で重用されるようになりました。



▶羽倉城主末近左衛門尉信賀像(三原市歴史民俗資料館蔵)

参考文献

- 『三原市史 第二巻 通史編』昭和52年
- 三原市役所 編集兼発行『久井町誌』平成9年
- 久井町誌編纂委員会 編集『三原市の文化財』平成28年
- 三原市教育委員会 編集・発行

あ・と・が・き

天下統一を目前に控えていた織田信長を本能寺で討ち、その後の日本の歴史の流れを変えたといわれる明智光秀。その光秀の書いた手紙が先月、岐阜県で見つかりました▼同じく先月、1人の青年が日本陸上界の歴史を動かしました。東洋大学陸上部の桐生祥秀選手。日本学生対校選手権の100mで9秒98を記録し、日本人で初めて10秒の壁を破りました▼今月は地域対抗の市民体育大会。80年以上続くこの大会で、今年はどうなドラマが生まれるのでしょうか(K)

税などの納期(普通徴収)

- 市県民税(第3期)
 - 国民健康保険税(第4期)
 - 介護保険料(第4期)
 - 後期高齢者医療保険料(第4期)
- 納期限 10月31日(火)まで
夜間収納窓口(19時まで) 木曜日

航空機の騒音測定結果(8月分)(Lden)

- ▶正広局(本郷町善入寺正広)=49.6
- ▶本郷局(本郷町船木川西上)=52.6

三原市の人口(8月31日現在)

※外国人住民を含む。
※()内は前年同月との比較。

世帯数	43,936 世帯 (-217)
人口	96,011 人 (-1,222)
男	45,980 人 (-601)
女	50,031 人 (-621)

人口移動の詳細については
広島県 人口移動 月報 で
検索